

希望の花

第35号（平成27年3月5日）
兵庫県立視覚特別支援学校 発行
〒655-0884 神戸市垂水区城が山 4-2-1
TEL 078-751-3291
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~kenritsu-svn/>



—学校評価報告—

今年度の「学校評価の結果」「結果の分析」「改善に向けての取り組み」について報告します。

報告に至る経過は、①9月下旬：保護者、高等部生徒、教職員に対して学校評価アンケートを実施、②10月：アンケートの集計・分析から、C評価の改善案を募集、③11月～12月：高等部生徒からさらにアンケートや聞き取りを実施、集まった改善案や意見について各部署で検討し集約、④1月：改善に向けての取り組み案について、ビジョン検討会で最終調整、⑤2月：平成27年度改善に向けての具体的な取り組みの集約、となっています。



1 学校評価の結果（詳しくは学校HPをご覧ください）

① アンケートの対象者と回収率

高等部生徒：26名（92%） 保護者：44名（80%） 教職員：68名（97%）

② 評価の方法

A：そう思う（4点）、B：どちらかと言えばそう思う（3点）、
C：あまりそう思わない（2点）、D：そう思わない（1点）として平均を算出

③ 総合評価の基準点

A：4.0～3.4 B：3.3～3.0 C：2.9～2.0 D：1.9～1.0

*平均値は、小数点以下1桁（四捨五入）で表しました。

評価項目		評価	総合
1	学校は、明るく楽しい雰囲気ですか。	生徒 3.3 B 保護者 3.4 A 教員 3.1 B	B 3.3
2	学校は、安全に配慮され、安心して過ごすことができますか。	生徒 3.0 B 保護者 3.2 B 教員 3.1 B	B 3.1
3	校内は、整理整頓され、清掃がきちんとできていますか。	生徒 3.1 B 保護者 3.2 B 教員 2.9 C	B 3.1
4	教職員は、熱意をもって公平に接していますか。	生徒 3.0 B 保護者 3.2 B 教員 3.1 B	B 3.1
5	将来を見通して、自立した生活のための知識・技能の定着が図られていますか。	生徒 3.0 B 保護者 3.1 B 教員 3.1 B	B 3.1
6	自立して生きていくための、強い精神力を養う教育が行われていますか。	生徒 2.6 C 保護者 3.1 B 教員 2.8 C	C 2.8
7	自分の得意なことを生かし、集団の中で自分の役割を發揮できるように支援がされていますか。	生徒 3.1 B 保護者 3.2 B 教員 3.1 B	B 3.1
8	学校生活の中で、基礎体力の充実が図られていますか。	生徒 2.9 C 保護者 3.3 B 教員 3.0 B	B 3.1

9	学校行事等は、達成感を味わい、創造力を伸ばす工夫ができていますか。	生徒 2.7 C 保護者 3.1 B 教員 3.3 B	B 3.0
10	一人一人のニーズや実態に応じた体験学習が工夫されていますか。	保護者 3.1 B 教員 3.3 B	B 3.2
11	教育活動を通じて、コミュニケーション能力を高める工夫がされていますか。	生徒 2.9 C 保護者 3.3 B 教員 3.1 B	B 3.1
12	授業は、よく準備され、理解しやすいように工夫されていますか。	生徒 3.2 B 保護者 3.3 B 教員 3.1 B	B 3.2
13	学部間の連携は密に行われ、一貫した教育活動が実践できていますか。	保護者 2.9 C 教員 2.8 C	C 2.9
14	将来に向けて、進路を考えるための情報提供ができていますか。	生徒 2.9 C 保護者 2.9 C 教員 3.0 B	C 2.9
15	進路希望実現に向けて、効果的な指導が行われていますか。	保護者 2.9 C 教員 3.0 B	B 3.0
16	わかりやすい人権教育や防災教育がされていますか。	生徒 3.0 B 保護者 3.0 B 教員 3.2 B	B 3.1
17	さまざまな部活動が展開され、活動が活発に行われていますか。	生徒 3.1 B 保護者 3.3 B 教員 3.4 A	B 3.3
18	寄宿舎は、自立に向けて適切な支援ができていますか。	生徒 2.6 C 保護者 3.2 B 教員 3.2 B	B 3.0
19	図書室は、整理整頓され、利用しやすい工夫がされていますか。	生徒 3.3 B 保護者 3.3 B 教員 3.4 A	B 3.3
20	個別面談やカウンセリングなどの機会が設けられ、相談機能が充実していますか。	保護者 3.2 B 教員 3.3 B	B 3.3
21	個別の教育支援計画に、本人及び保護者のニーズや意見は十分に反映されていますか。	保護者 3.2 B 教員 3.3 B	B 3.3
22	個別の指導計画に基づき効果的な授業が展開されていますか。	保護者 3.3 B 教員 3.2 B	B 3.3
23	個別の指導計画は、目標や指導内容、評価について説明がされていますか。	保護者 3.2 B 教員 3.3 B	B 3.3
24	家庭と学校との連携は十分にできていますか。	保護者 3.3 B 教員 3.2 B	B 3.3
25	学校は、PTA、同窓会、地域との交流や連携ができていますか。	保護者 3.2 B 教員 3.2 B	B 3.2
26	幼児児童生徒と他校・園との共同学習により、交流が深められていますか。	保護者 3.1 B 教員 3.2 B	B 3.2
27	幼児児童生徒の課題に応じて、福祉・医療・労働等の関係機関と連携がとれていますか。	保護者 3.0 B 教員 3.0 B	B 3.0
28	学校ホームページ等で広報活動が十分にされていますか。	保護者 3.1 B 教員 3.4 A	B 3.3
29	視覚特別支援学校として地域への相談支援活動が十分にできていますか。	保護者 3.2 B 教員 3.4 A	B 3.3
30	視覚障害教育について理解啓発が活発に行われていますか。	保護者 2.9 C 教員 3.4 A	B 3.2

2 結果の分析

(1)今年度改善できた点

昨年度の評価と比較して保護者評価で大きく向上した項目は、No.4（教職員の熱意）、No.21（個別の教育支援計画）、No.22（個別の指導計画）、No.25（PTA・同窓会・地域との連携）です。これは、「個別の教育支援計画」の聞き取りや「個別の指導計画」の説明を担当が懇談等において保護者と丁寧に行い、合意形成を図ることができたことが評価されたものであると思われます。教職員評価で向上したものは、No.24（家庭と学校との連携）です。これも「個別の指導計画」を中心とした懇談等での話し合いや、必要に応じて適切に連絡を取り合うことなど、保護者との相談や連携を密に行ったことが実感できた結果だと思えます。

昨年度、アンケート対象別でC評価となっていた12項目のうち11項目の評価が向上していました。学校として課題意識を持ち、各校務部等で具体的な改善策を考え、取り組めた成果であると思えます。

(2)改善を要する点

昨年度よりやや改善したものの引き続き総合評価でC評価となったものは、No.6（強い精神力の養成）、No.13（学部間連携）の2項目です。昨年度の改善案をもとに現在も取り組みを進めており、今後の重点を置いて取り組むべき課題だと認識しています。

No.14（進路情報提供）は、今年度新たに総合評価でC評価になり、生徒や保護者への進路に関する情報量や伝達方法が不十分であったと考えられます。

また、今年度は、高等部生徒のマイナス評価（C、D）が増えていることが目立ちました。No.6、No.14、No.18（寄宿舍支援）、No.9（学校行事の達成感）、No.11（コミュニケーション能力）です。これについては、高等部の生徒からさらに意見を聞き取ったり、アンケートによる改善案を求めたりして、詳しい意識調査を行いました。

3 改善に向けての具体的な取り組み

A 活力があり、魅力的な学校生活のために

- (1) 学校行事は生徒アンケートをとり生徒の意向を入れた企画となるようにし、生徒会がより主体的に関われるようにする。
- (2) 生徒が行事等の企画運営ができるように方法などをわかりやすく指導する。
- (3) 各学部、幼児児童生徒の実態にあわせて、計画的に体力づくりに取り組む。
- (4) 体力づくりの取り組みがわかるように保護者に情報を発信する。
- (5) 他学部の教育活動（教育内容・教授法）に関心を持ち、研究会や報告会などを活用して情報を共有し学ぶ。
- (6) 学部を越えて、幼児児童生徒が交流する機会を増やしたり、情報を交換する機会（ケース会など）を持つたりして学部間の連携・情報共有を図る。
- (7) 月に1回の全校大掃除、年1回のワックスがけを実施し、校内清掃を充実させる。
- (8) 活用できていない小会議室や資料室を、生徒や保護者等が利用しやすくなるように整備する。
- (9) 寄宿舍では、児童生徒のプライバシーに配慮し自我の目覚めや成長を促し、自主性や社会性を育む。
- (10) 寄宿舍と家庭、学校が連携して指導・対応を行う。
- (11) 交流及び共同学習を拡大し、中高生への障害理解の啓発活動を行う。
- (12) 校内外に向けた広報活動をさらに充実させ、PTA や地域と連携を深めた活動を行う。

B 卒業後を見据えた教育支援

- (1)「自立」について児童生徒と教員が共に考え、目指すべき姿を共通理解して教育活動を行うとともに、保護者と連携して自立を促す。
- (2) 幼小学部、中学部、高等部普通科の幼児児童生徒およびその保護者を対象として、職業自立に向けての進路学習会などを早期に行い、卒業後の社会自立の意識を高める。
- (3) 幼児児童生徒に対して指導や支援が先行せず、挑戦できる主体的な活動を増やす。
- (4) 他学部、他校、地域など多様な人々との交流の機会を増やし、社会生活に役立つコミュニケーション能力を養う。
- (5) 求人情報などの進路情報に関する掲示板を設置する。
- (6) 大学や専門学校、卒業生情報などの資料を閲覧できる進路指導コーナーを設置する。
- (7) 児童生徒の進路に関する共通理解を図り、多角的な意見や情報を得られるような進路ケース会議を行う。
- (8) 生徒の進路希望ごとに、進路説明会や進路学習会を実施する。

4 最後に

幼児児童生徒の自立に向けた強い精神力やコミュニケーション能力を養ったり、地域との連携や障害の理解啓発などを深めたりするためには、特に「交流及び共同学習」の推進がカギとなることを再認識しました。学校評価の結果・分析後、今年度中に実現可能なことについて検討し、早速次の3つの取り組みを計画または実施しました。

- ①本校 PTA 研修会を「東垂水小学校 PTA」「垂水東中学校 PTA」にも広報しました。研修会に地域 PTA 役員 9 名の方々に参加していただき、視覚障害について一定の理解が得られました。参加された方がご家庭や地域で話題にさせていただくことで、障害理解が広まると期待しています。
- ②垂水東中学校との部活動交流会を計画しました。3学期末の放課後に、中学校卓球部2年生と本校卓球部が、本校体育館でサウンドテーブルテニス（盲人卓球）の交流ゲームを行う予定です。同世代の生徒とスポーツを通して交流することで、自然な対話や関わりができると思います。
- ③来年度、舞子高等学校との「交流及び共同学習」を発展充実させます。今年度は年1回であったものを来年度は3回にし、1学期・3学期には舞子高等学校で、2学期には本校で共に学び合うことができるように計画しています。



保護者の皆様には、学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。いただきました評価やご意見については各部署・各学部で検討を重ね、学校組織として改善に向けて取り組んで参ります。今後とも、本校学校教育にご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

